

## 普通的生活を作る

この春、3年2組にクラスメイトが一人増えました。彼はとても明るく、クラスにすぐ馴染んで、まるでずっと前からクラスにいるようでした。しかし、彼はとても大変な経験をくぐり抜けてきたのです。

彼の出身地は福島県の南相馬市です。南相馬市は3月11日の東日本大震災で10m近い高さの津波によって海岸より約2キロの内陸まですべてさらわれ、1000人近い方が犠牲者となりました。また市の一部が福島第一原子力発電所の事故により半径20キロメートルに含まれ、多くの人々が町を去らなければならぬ状況となったそうです。毎日、震災の様子がテレビのニュースで流れているので僕は何となく「東北は大変なんだな」と感じていました。しかし彼の話を聞くと、体験した者でしかわからない、悲しく、つらい体験だと知りました。

3月11日の福島第一原子力発電所の事故や浜岡原子力発電所の一時運転停止を受け、今まで当たり前のように使ってきた電気が日本中で不足しました。それがきっかけで、私たちの生活がいかに電気に支えられ便利であったかを痛感しました。また、被災地の様子をテレビで見ると、道路にはひびが入り、橋が崩れ、農業用ダムが決壊し、当たり前に使っていた社会基盤や農業基盤が使えなくなっていて、日常生活や産業に大きな打撃を与えていました。しかし、最近ではテレビを見る度に、今回の震災で使えなくなった道路や橋、鉄道などが日に日に復旧していく姿を目にすることが出来ます。テレビの画面の向こうで活躍しているのは、僕たちが授業で勉強したバックホーなどの建設機械や土木会社の人々でした。そして僕は、社会基盤や農業基盤を元通りにすることが出来るのは土木や農業土木の技術であることに気がつきました。

僕は農業土木科で「農業土木施工」や「農

業土木設計」などの農業土木に関する科目や実習を勉強しています。先生は「社会の生活や農業基盤を支えるとても大事な勉強だ」とよく話してくれます。でも正直、自分が勉強している科目が私たちの生活とどのように関係しているかよく分かっていませんでした。また、2年生の時のインターンシップでは、基礎的な土木工事を体験しましたが、やらなくてはいけないから何となくやっていました。

しかし、今回の震災を通じ、農業土木や土木は人々の生活に欠かすことができない道路や橋を築き、食料生産をするために欠かすことができない農地や農業用水などを作り出す素晴らしい産業であると感じました。

僕は卒業後土木会社に就職したいと考えています。そして会社で一日も早く一人前となり、この地方の農業基盤や社会基盤を整備していきたいと考えています。この地方では、今後30年の間にマグニチュード9クラスの東海・東南海地震が高い確率で起こると言わ

れています。この地震は今日この瞬間にも起きるかも知れません。この地方での地震の被害が少しでも小さくなるように、また地震後の復旧を一日でも早くできるように、自分の技術を高めていきたいと考えています。そして被災した東日本の地域で仕事をする機会があれば、一日でも早く人々が普通の生活を取り戻せるように努力したいと思います。

愛知県立稲沢高等学校

内山翔太（うちやましょうた）

農業土木科 3年